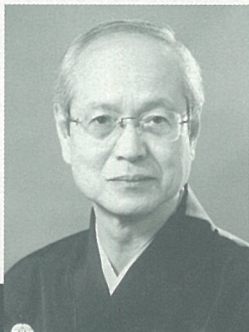


コラレでの薪狂言の季節がやってきました。

6回目になりましょうか。いつも野外にふさわしい演目を考えておりますが、御感想はいかがでしょうか。ホールなどでの狂言公演も普及活動の一つとして随分増えましたが、コラレの野外能舞台での公演は、それとは違った落ち着いたのびやかな雰囲気があって、私は大変に好きでございます。それは観客とコラレの関係者の方々の真摯な温かい心遣いによって成り立っているものと、有り難く思っている次第でございます。

野村万作



野村万作 (狂言師)

1931年生れ。故6世野村万蔵(人間国宝)の次男。祖父初世野村萬斎及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。早稲田大学文学部卒業。狂言の最高秘曲である「釣狐」の演技で芸術祭大賞を受賞した他、紀伊國屋演劇賞、芸術院賞、紫綬褒賞、坪内逍遙大賞など多くの受賞歴を持つ狂言界の第一人者。国の内外で狂言普及に貢献。古典はもとより新しい試みにもしばしば取り組む。1994年NHKで「釣狐に挑む」と題するドキュメンタリーが放映され、多くの人々に感銘を与えた。名古屋女子大学客員教授。著書に「太郎冠者を生きる」(白水社)がある。



野村万之介(狂言師)

1939年生れ。故6世野村万蔵(人間国宝)五男。父に師事。重要無形文化財総合指定者。「万之介狂言の会」主宰者。狂言界の代表的演者の一人。芸術選奨新人賞受賞。亡父の洒落な芸を継承している。「野村狂言団」「万作の会」の重要メンバーとして、海外公演にもたびたび参加。また、大学の狂言サークルを指導して久しい。



野村萬斎(狂言師)

1966年生れ。野村万作の長男。祖父故6世野村万蔵及び父に師事。東京芸術大学音楽部卒業。3歳で初舞台後、「三番叟」や最高秘曲「釣狐」「花子」などを披く。狂言こさる乃座主宰者。国の内外での狂言公演に参加。近年は狂言の演出・脚色も務め、現代に生きる狂言師として狂言の普及を目指す。一方で映画や舞台、TVドラマに出演するなど、幅広い活躍も目立つ。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。99年には第54回文化庁芸術祭演劇部門新人賞、第7回読売演劇大賞男優賞を受賞。東京大学非常勤講師。著者に「萬斎でござる」(朝日新聞社)がある。



石田幸雄(狂言師)

1949年生れ。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。すでに数多くの優れた30年の舞台歴を持つ野村家の重要な演者。大曲の「三番叟」「釣狐」「花子」をすでに初演。また新しい作品についての試みにも意欲的な発表が多い。海外公演の経験も豊富である。

番組

解説

石田 幸雄

火入の儀

狂言 蚊相撲 かずもう

新しい召使いを召し抱えるため、大名は太郎冠者を海道へ探しにやる。そこへ江州守山の蚊の精が人間の姿となり、人の血を吸おうと通りかかり、太郎冠者は知らずにその蚊の精を連れて帰る。大名は新参者が得意な相撲を見たいと思う。しかし誰もいないため、自身が相手をするにすることになるのだが……。

大名 野村 萬斎

太郎冠者 野村万之介
蚊の精 深田 博治

後見 竹山 悠樹

狂言 六地藏 ろくじぞう

ある田舎者が、新築の地藏堂に六地藏を安置しようと、都へ仏師を探しに行く。これを知った都のすっぱ(詐欺師)が田舎者に、自分こそ安阿弥の流れをくむ真仏師(まぶっし)だと偽り、一昼夜で因幡薬師の仏堂のそばに六地藏を作っておこうと約束するが……。

すっぱ 野村 万作

田舎者 石田 幸雄
徒ら者 高野 和憲
徒ら者 月崎 晴夫
徒ら者 竹山 悠樹

後見 野村 良乍